

災害科学的基礎を持った防災実務者の養成

実施機関：静岡大学（総括責任者：伊東 幸宏）

実施期間：平成 22～26 年度

プロジェクトの概要

静岡県が実施している「静岡県防災士」養成講座では、一般的な防災対策や、災害発生後の対応ノウハウ的な知識は修得できる。しかし、効果的な被害軽減には地域の災害特性に応じた事前対策が重要であり、そのためには「危機管理ノウハウ」修得にとどまらず、災害科学的知識にもとづく調査分析を通じた問題解決能力が必要である。本プロジェクトではこのような能力を持つ人材の育成を目的とする。具体的には、i)最新の災害科学基礎知識(地震、豪雨などの自然科学的知識にとどまらず、災害時の人間行動など人文社会科学的知識も含む)修得を目的とする講義、ii)災害科学に関わる現地踏査、文献、データ収集、観測などを通じて得られた各種データの読解・処理作業などを行う実習・演習、iii)メンターの個別指導によるセミナー(アド研修)を通じ、災害科学的基礎を背景とした実践的応用力を養う。受講者には、最終的に自らの課題をとりまとめた学会発表を義務づける。これが達成された段階で、県より「ふじのくに防災フェロー」の称号が付与される。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	b	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

現場で防災に関わっている「静岡県防災士」に災害における科学的な基礎知識を付加することにより、一層効率的に活躍できる高度な防災の実務者を養成するという実効性の高いプログラムであり、大学と自治体との緊密な連携の下で所期の目標と同等の取組が行われていると評価できる。今後、東日本大震災の教訓を、防災の専門家の視点から整理した上で、災害発生時の対応能力に併せて災害復興にも役立つ能力を有する人材の養成も視野に入れて、現在のカリキュラムの再構築を期待する。

・**進捗状況**：修了者数が所期の目標人数を上回る見込みであることは評価できる。今後は、養成人材の全国展開をも視野に入れながら、養成対象である静岡県防災士の数（1,250名）に対する本プロジェクトの養成計画数の妥当性を検証、検討することを期待する。

・**人材養成手法の妥当性**：「静岡県防災士」を対象としているため実効性が高く、修了要件が明確であること及び修了生には静岡県より「ふじのくに防災フェロー」という称号も付与されることなど養成手法は妥当であると評価できる。しかし、採択時にコメントとして付された「養成された人材の全国展開も視野に入れるべき」との指摘に対して対応が遅れており、今後、東日本大震災も教訓にして、防災のみならず災害対応を包括的に実践できる人材育成とそれに関

する新たなカリキュラムを組み込むことがより一層必要である。

・**実施体制・自治体等との連携**：大学と自治体等との間には実効的で緊密な連携があると評価できる。また、自治体の基本方針も明確であることから、今後、一層の連携強化を図り、地域経済・産業への貢献にも意識を向けたプロジェクト推進を期待する。

・**人材養成ユニットの有効性**：養成内容が修了生の職場での即戦力となる可能性を高めていることや、修了生間のネットワークも良く機能していることなど評価できる。今後、修了生の職場での活躍を支援するためのネットワークにするよう、より一層の拡充を期待する。

・**継続性・発展性の見通し**：事業の発展に向けて、静岡大学防災総合センターを拠点とした継続策が検討されていることは評価できる。今後、自治体など人材養成が必要な機関に資金支援を依頼するなど、資金調達を含むより具体的な継続策の策定に着手することを期待する。